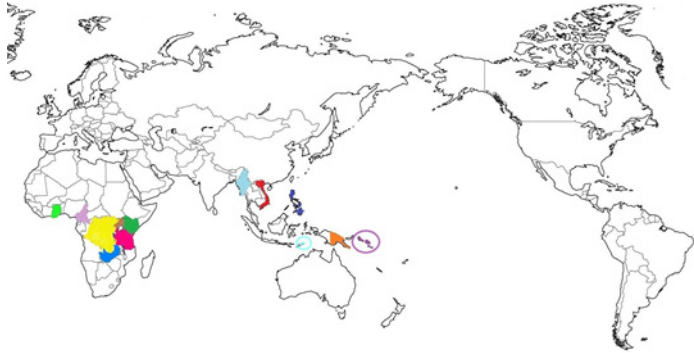


世界共通語「Do-nou」

世界各地に「土のう」を広め、確実に定着していくように現地に活動方針をたてこれまでパプアニューギニア、フィリピン、ベトナム、東ティモール、ケニア、ウガンダ、タンザニア、コンゴ民、ガーナ、ザンビア、カメルーン、ミャンマー、ソロモン諸島で活動を展開しています。「Do-nou」が世界共通語になるのもそう遠くないかもしれません。（各地での活動内容はホームページをご参照下さい）



国際協力の現場を日本の人々に

ケニアでも NGO 登録をし、北西部、標高 2,200m のエルドレットという町に現地事務所を設置しました。国際協力に関心のある日本の方々に、事務所を拠点とし現地の人々のくらしに近いところから国際協力の現場に触れる機会を提供しています。これまでに 36 人のボランティアの方に道直しを体験してもらいました。



ケニア事務所



村人と一緒に道直しをする日本からのボランティア

500 円で途上国の農道を 1 m 直せます

これまでの実績(2012年3月現在、50,700mを補修)から、農道(一車線)を1m直すのに約200円から800円で直すことができます。この費用は主に土のう袋代となっています。平均して1コイン、500円で1mの農道が直せます。道が直るだけでなく、現地住民へやる気、自信を与えることができるのです。あなたも「道普請人(みちぶしんびと)」となりませんか。

私たちの活動を知ってください そして応援をお願いします

年会費・正会員(総会での議決権を有します。)
個人会員 一口 5,000 円(一口以上お願いします)
団体会員 一口 50,000 円(一口以上お願いします)

年会費・賛助会員(総会での議決権を有しません。)
個人会員 一口 3,000 円(一口以上お願いします)
団体会員 一口 30,000 円(一口以上お願いします)
寄付も受け付けています。

納入方法:郵便振替、または銀行振込でお送りください。
入会をお考えの方はメール、または Fax にて①お名前(ふりがな)、②郵便番号/ご住所、③電話番号、④E-mail アドレスをお書きの上お送りください。入会申込みのためのリーフレット、郵便振替用紙をお送りします。

郵便振替 口座番号: 00950-3-301893
加入者名: 特定非営利活動法人 道普請人
銀行口座 みずほ銀行 出町支店 普通口座
口座番号: 1091406
口座名: 特定非営利活動法人 道普請人
(トクティヒエイリカツドウホウジン ミチブシンビト)
滋賀銀行 桂支店 普通口座
口座番号: 424162
口座名: 特定非営利活動法人 道普請人
(トクティヒエイリカツドウホウジン ミチブシンビト)

問合せ先

NPO 法人 道普請人 事務局:酒井 樹里
〒600-8213 京都市下京区東塩小路向畑町 20-13
プレサンス京都駅前 502 号
Tel & Fax : 075-343-7244
E-mail : info@michibushinbito.ecnet.jp
URL : http://michibushinbito.ecnet.jp

農村部の貧困に苦しむ人々の
やる気と自信を引き出すために

「自分たちの道は自分たちで直せる」
という意識を広げたい



みちぶしんびと
NPO 法人 道普請人

世界に貧困層の四分の三は農村部住民

将来にわたって持続可能な地球環境を維持するため、解決すべき問題の一つとして「貧困削減」が挙げられます。毎日1ドル以下で生活しなければならない人々の多くは、農村部に住んでいます。食料は自給自足できても、十分な現金収入が得られず、教育費や医療費を確保できないことが問題となっています。

作った作物が腐ってしまう

農村部の社会基盤は貧弱で、主要幹線道路から枝状に配置されている道路は未舗装の状態です。

この未舗装道路は、雨の少ない乾季には道路面が硬く、車の通行が可能です。ところが雨季になると、道路が川のようになったり、水が溜まって泥田状態になったり、深い轍掘れで車の底がすれたりして、通行がままなりません。未開発国の農村部では「1本道」状態になっており、10mでも走行不能の部分があれば、代替道路が存在せず村全体の死活問題となりかねません。病人を病院に運べないこともあります。せっかく収穫した作物を畑から市場まで運ぶことができず、腐らせてしまうこともあります。

ではどうすればいいのでしょうか。



自分たちの問題は自分たちで解決する

1つの解決法は、開発援助の手を待つのではなく、住民たちが自分たちの力で、自らの生活道路は自らで作って維持管理していくことだと考えます。日本でも昔は「道普請」の精神で、住民が協力し合って道路を改修し、基本的な生活基盤を維持管理していました。



(「目で見る五條・吉野の100年」より引用)

地産地消を実現する「土のう」

住民が自ら道を直すためには、シンプルな方法が必要です。つまり現地材料を用い、基本的には人力施工が主体の道路整備手法の開発が不可欠です。我々は日本古来より使われてきた「土のう」を用いた道路整備手法を開発しました。現地で調達可能な袋材を利用し、現地発生土や周辺の河川域にある川砂利を用いて、人力施工により整備を進めることができます。



維持管理が重要

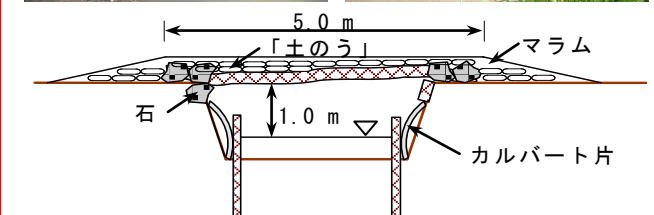
実際に、開発途上国農村部で「土のう」により道路整備を進めながら手法を伝えるとともに、通行性の確保には継続した維持管理が重要であることも訴えてきました。村に実際に入り込んで、住民に技術を「紙芝居」で伝え、一緒に汗を流し、泥だらけの道路を改修しています。その結果、ある村では道路の点検日、点検者、点検担当範囲を設定し、持続的に維持管理を進めています。



住民のやる気と自信を引き出す

道を利用する村人たちが自分たちの共有財産と認識し、その維持管理にあたるのが大切なことです。自らの手で生活環境を改善することで自信を持ち、自分たちの道であるという意識を生み出し道以外の他の問題(排水路や橋、小規模ダム)をも自分たちで解決しようという姿勢に発展します。必ず、貧困削減につながります。

下記に具体的な事例を示します。



「土のう」による道直しをきっかけとして30万円相当かかる橋の補修を、住民自らが一致団結し地方政府への交渉、募金、ボランティアで成し遂げた！